

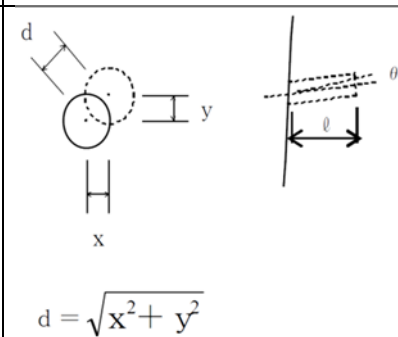
## 鉄筋挿入工の施工管理に関する特記仕様書

### 第1条（適用）

この特記仕様書は、対象工事のうち鉄筋挿入工にかかる施工管理に適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合は、監督員と協議の上、施工管理を行うものとする。

### 第2条（出来形管理基準及び規格値）

受注者は、出来形を下表に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理資料を作成し管理するものとする。

測定項目	規格値	測定基準	測定箇所
削孔深さ $\ell$	設計値以上	全数（任意仮設は除く）	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$
配置誤差 $d$	75		
せん孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度		

### 第3条（品質管理基準）

受注者は、品質を下表に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。

種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準
施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	1回/週
		モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	設計図書による。	練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。
		確認試験	別表による	設計荷重に対して十分に安全であること。	・施工数量の3%かつ3本以上。

第4条（写真管理基準）

受注者は、工事写真を下表に定める頻度により撮影するものとする。

分類	撮影項目	撮影頻度 [時期]
品質管理写真	モルタルのフロー値試験	1回
	モルタルの圧縮強度試験	[試験結果がわかる写真]
	確認試験	試験毎に1回 [試験結果がわかる写真]
出来形管理写真	削孔深さ	規格毎に10本につき1回、 10本以下は1施工箇所につき2回 [削孔後]
	配置誤差	

別表（第3条関係） 確認試験の試験方法（参考：土工施工管理基準（西日本高速道路株式会社））

項目	試験頻度、規格値及び各項目の内容
①試験頻度（本数）	・任意抽出で全本数の3% かつ最低試験本数3本以上
②最大試験荷重	・設計荷重とする。 ・経験的手法で設計を行った場合の試験荷重は以下のとおりとする。ただし、これにより難しい場合は、別途設定することができることとする。 砂および砂礫の場合 10.0kN 軟岩の場合 50.0kN 硬岩の場合 70.0kN
③载荷サイクル	・単サイクル
④载荷方法	・原点荷重 5.0kN ・増加荷重のきざみ 10.0kN ・各段階での荷重保持時間 5 min ・载荷速度 10.0kN/min
⑤反力装置	・最大試験荷重载荷時でも壊れず、のり面工や地盤に有害な影響を与えないもの
⑥計測項目	次に示す項目について計測する。 ・载荷荷重 ・試験時間 ・補強材変位 ・反力装置変位
⑦試験結果のまとめ	・荷重-変位量曲線の形でまとめる。